



今回は趣向を変えて、お金に関することわざをいくつか紹介します。ことわざとは「古くから言い伝えられてきた、教訓または風刺の意味を含んだ短い言葉」です。現代でも十分通じるものが多数ある一方、時代とともにそぐわなくなったもの、新しい解釈ができるようになったものもあります。個人的な解釈を加えながら見ていきます。

・時は金なり…

「時間は金銭と同じく貴重なものだから、無駄に費やしてはいけない」という意味。最近では「タイパ（タムパ）」（タイムパフォーマンス）を重視する人が増えていますが、まさにこのことわざに通じるものがあります。

・商い三年…

「どんな仕事も3年は辛抱しないと儲けも成功もないという教え。辛いこともすぐに放り出しては結果が出ない」という意味。タイパを重視するあまり、何でも効率的に済まそうとしたら、返って無駄な時間を過ごすばかりになりかねません。

・辛抱する木に金なる…

「辛抱強くコツコツ励めばいつかは成功する、財産も持てるようになる」という意味。これも上記の「商い三年」と同じような意味です。やはり「継続は力なり」というのは多くのことに共通するようです。

・一銭を笑う者は一銭に泣く…

「わずかなお金を粗末にする者はわずかなお金のために泣くことになる」という意味。100円ショップなどで、ついつい「安いから」と買いすぎて気が付くと思わぬ高額会計にびっくりすることってありますよね。

・金なき者は金を使う…

「お金の無い人のほうがかえってお金に執着心がなく浪費してしまう」という意味。「お金がない」が口癖になっている人を良く観察すると、使わなくなったサブスクを解約していなかったり、「安いから」と必要以上にまとめ買いしていたり、毎日コンビニでスイーツを買っていたり…という人が多い気がします。少額でもお金は使えばなくなりますからね。

・大費いより小費い…

「注意すべきは高額買い物より日々の細々とした買い物」という意味。日常で頻繁に行われるのは、高額よりも少額での出費です。少額の出費が積み重なることで、結果的には大きな支出をしていることが多いものです。前述のサブスクやコンビニや100円ショップでの買い物がいい例でしょう。

・金を貸せば友を失う…

「友人にお金を貸すと、友情にひびが入るようになる」という意味。友人間でお金の貸し借りをすると、それが元で仲違いを起こしがちであることから、親しき間柄であっても安易にお金の貸し借りはすべきではないという戒めです。

いかがでしたか？ なんとなく思い当たることがある人が多いのではないのでしょうか。

